

前置詞に弱い日本人



★ 実は難しい “～の” の英訳

英語の前置詞は、冠詞と同様、日本人英語学習者にとっては頭の痛い学習課題である。take care of/ take ~ into account/ take ~ for granted など熟語として覚えた表現では、前置詞を間違えて使う例は少ないが、名詞＋前置詞＋名詞のようなパターンの場合、どの前置詞を使うのがよいのか、迷うことが多いはずだ。以下の日本語表現（名詞＋「の」＋名詞）に相当する自然な英語表現を苦勞なく生成するためには、前置詞の用法に相当習熟していることが求められる。

- | | | |
|----------------|-----------------|------------|
| 1 : 肺癌の患者 | 2 : 腹痛の薬 | 3 : 年齢の差異 |
| 4 : 血圧の変化 | 5 : ウサギの実験 | 6 : 新薬の実験 |
| 7 : 化学の実験 | 8 : 終末期の患者 | 9 : 精神医学の本 |
| 10 : ラバとロバの違い | 11 : カズオイシグロの小説 | |
| 12 : 京都（出身）の人 | 13 : 博物館の入り口 | |
| 14 : 肝移植手術の理由 | 15 : 鴨川の橋 | |
| 16 : 京都のガイドブック | 17 : SARS の懸念 | |
| 18 : 地球温暖化の解決策 | 19 : ダイアナ妃死因の調査 | |
| 20 : 成功の秘訣 | | |

上記の日本語表現は、以下のような英語表現になる。

- | | |
|-----------------------------------------|--------------------------------------|
| 1 : a patient with lung cancer | |
| 2 : medicine for a stomachache | |
| 3 : a difference in age | 4 : changes in blood pressure |
| 5 : an experiment on rabbits | |
| 6 : an experiment with new drugs | |
| 7 : an experiment in chemistry | |

- 8 : patients **at** the end of their life
9 : a book **on** psychiatry
10 : the difference **between** a mule and a donkey
11 : a novel **by** Kazuo Ishiguro 12 : a man **from** Kyoto
13 : the entrance **to** the museum
14 : a reason **for** liver transplantation
15 : a bridge **over** the Kamo River 16 : a guide **to** Kyoto
17 : a concern **about** SARS
18 : solutions **to** global warming
19 : an investigation **into** Princess Diana's death
20 : the key **to** success

日本語の助詞「の」は、日本語の世界では非常に出番が多く、上記の多用な表現をカバーしていて、名詞を修飾する場合には、万能選手とまではいかななくても、これ1つで大概事足りることがわかる。一方、上記の英語表現からわかる通り、「の」の直訳として日本人に頻繁に利用される前置詞 of は、ここでは意外なことに出番がない。むしろ、不用意に of を使ってしまうと、前置詞の誤用となり、意味の誤解を生じることになる。

「こころ変わり」が英語では、a change of mind/heart と表現されるので、「血圧の変化」は、changes of blood pressure と表現しても日本人には違和感がない。また「～の実験」に相当する表現では、on/with/in と3通りの前置詞が使い分けられているから厄介である。英語では、日本語の助詞「の」に相当する前置詞が多様であるため、日本人学習者には、前置詞の意味の差異に敏感に反応し、適切な使用を心がけることが求められる。

★ 前置詞の誤用が招く思わぬ誤解

冠詞の誤用と同様、日本人英語にみられる前置詞の誤用は、意味の正確な伝達に支障をきたしている、と日本の大学で教鞭を執る私の友人（イギリス人）は断言する。

前置詞の用法を多少間違っただけで、目くじらを立てることはない、意味・意図は伝わるはずだ、という意見もあるかもしれないが、学術論文においては、前置詞の誤用が思わぬ誤解を生じることになりかねない。

以下は、実際に学術論文のコーパスで検出された、日本人研究者によって書かれた英文を、前置詞の用法をそのまま採用し、一部改変したものの、原文をほぼ忠実に再現したものである。

Of the six patients receiving the treatment, three **died of** renal failure, two **died from** a heart attack and the other **died for an unknown cause**.

おそらく、「…3人が腎不全で死亡し、2人が心臓発作で亡くなり、そしてもう1人が原因不明で亡くなった」ということを伝えるのが意図されていたと想像する。そして die の直後の前置詞 of の繰り返しが文章を単調にさせると判断されたためか、二度目には from を、そして最後の事例では for this reason などでお馴染みの、原因・理由を述べる場合に使われる前置詞 for が採用されたのであろう。

通常、「病気などが原因で死ぬ」場合は、die of を使うのが医学関連学術論文では一般的であり、この表現の頻度が一番高い。die from も、辞書で用例が確認されるように、実際には使われており、学術論文のなかでも die of と同じ意味で使われているのが確認できる。ただし、英米人の学術論文では die from は、die of の頻度と比べると半分以下の出現頻度であり、日本人英語論文で多数確認されるのと対照的である。そこで、上記の例文にあるように、die of、die from 以外の表現 die for が出現すると、病気以外の全く違った原因・理由を伝えようとしていると理解されることになる。die for の用例を辞書で探すと、大概 die for their faith/ a cause/ freedom/ their country などの表現が取り上げられている。要するに、信仰・大儀・自由・国のために命を落とす、という場合に使うのが die for ~である。上記の英文に戻ると、「3人が腎不全で死亡し、2人が心臓発作で亡くなり、そしてもう1人は理由不明だがある大儀 (cause)

を通すため命を落とした」という意味になる。もしこれが臨床医の報告であれば、最後の1人は、信仰上の理由か何かで治療を拒んで、その結果亡くなったのだと取られかねない英文である。素直に、*died from an unknown cause* としなかったばかりに、思わぬ誤解を招くことになる。前置詞の誤用恐るべしである。

★前置詞学習の難しさ

一般に、前置詞の誤用については、上記のような大きな失敗をしたという自覚があまり学習者側にないたため、失敗に学ぶ、ということが期待できない。学術論文に耐えうる英語を書くためには、前置詞のセンスを磨くことが肝要である。ちょうど、日本語を学ぶ外国人留学生が、日本語の「は」と「が」の差異を理解し、正しく使い分けなければ、日本語でまともな論文を書くことができないのと同じである。外国人留学生には、日本人との宴席の後で、くれぐれも、「私が払います」とは言わないようにと注意を促している。「私は払います」という表現とでは、日本人の反応、宴会の後の財布の中身に、劇的な変化を生じるであろうから。

前置詞習得の困難さは、日本語の助詞の習得に苦勞する外国人にはよく理解されるだろうと思われる。「父に電子辞書をもらいました」と「父に電子辞書をあげました」は、どちらも「に」という助詞が使われているが、英語では前者の場合 *from*、後者の場合には *to* で表され、全く別個の、しかも逆の意味をもつ前置詞が使われる。一見単純に思われる前置詞（助詞）の多義性は、いつまでも学習者を悩ませる。あるいは、前置詞に対する日本人学習者の戸惑いは、日本語の名詞に数詞を付けた表現をする場合に外国人が苦勞するのと似ているかもしれない。数に言及する場合に、日本語ではいちいち個別に、鉛筆1本、文庫本2冊、椅子1脚、象3頭、ねずみ1匹、ツバメ1羽、手紙1通、家1軒、粉薬1服、靴1足、皿5枚、車3台などのように、適切な表現を習得する必要がある。しかし、これらは、日本人にとってはごくごく当たり前の表現であり、これらを使い分けることに苦勞することはまずない。口語では、鉛筆1つ、

文庫本2つ、椅子1つなどと簡便な表現も可能であるが、それでも象3つ、車3つなどと表現すると、許容の範囲を超えてしまう。英語の前置詞についても、同様に、場合によっては許容の範囲内ということもあるが、学術論文などでは、誤解を招かない的確な表現を求められるのは当然のことであり、前置詞の適切な使用は、日頃日本人学習者にあまり意識されていないだけに、重要課題である。

★ 注意すべき前置詞の使い分け

前置詞が包含する、意外とも言える多用な意味について、無頓着でいると、次のような英文に接してその意味の解釈で一瞬戸惑うことになる。

A love of nature is important.

一見して、単純な英文であるが、「自然の愛は大切である」という日本語訳をする学習者は案外多い。しかしこの日本語表現は、解釈を巡って論争が生じそうである。「自然の愛」を「自然界からの恩恵」と解釈する余地があるし、実際にそのように解釈している学習者にこれまで頻繁に遭遇している。この場合、loveは動詞形があることから、loveとnatureは動詞と目的語の関係になっていると解釈すべきである。だから、名詞のloveを動詞として訳し、「自然を愛することが大切である」と訳出すると、明快な解釈になる。これは、まだ私が大学に入学して間もない頃に、恩師から「名動説（名詞は動詞のように訳をして意味を明確にとらえるのがよい）」として教えられた、英文解釈の基本中の基本である。

一方、次のような頻出日本語表現はどのような英文になるだろうか。

「私は、平成大学の学生です」

前置詞の用法に無頓着でいると、I am a student of Heisei University. という英文を生成しそうである。残念ながら、この英文は標準的な表現とは異なる。通常なら、I am a student at Heisei University. と表現される。a student of の場合は、直後に専攻科目

などが来るので、I am a student of medicine. という表現になり、所属大学を付記する場合は、at Heisei University. という具合に大学名がその後に付記されることになる。of の安易な利用から脱却して、英語の前置詞は適材適所で使われることを再度確認しておきたい。

A) complain of/about の使い分け

前置詞の用法に習熟してくると、次の英文の後続部分の内容を類推することができる。

(ア) Mr. Smith complains of pressure ...

(イ) Mr. Smith complains about pressure ...

上記2つの英文に接すると、英語を母国語としていれば、即座に以下のような内容が後続することを連想すると思われる。すなわち、(ア)の直後には(a)を、一方(イ)の直後には(b)のような内容が来ることを予感する。

(a) in the abdomen, nausea, and vomiting.

(b) from congressional staff to pay for their food and drinks.

辞書の解説だけでは、complain of と complain about の違いについてはあまりはっきりしない。しかし、実際に医学関連の学術論文を検索してみると、通常「病状を訴える」場合には、ほとんど例外なく、complain of が使われていることが確認できる。だから、以下のような表現は奇異に映るはずである。文法的に正しく、しかも辞書の解説からも、間違いとは指摘しにくい表現であるが、言語使用の実際からは、やはり逸脱した表現であると言える。

Mr. Smith complains of the weather.

Mr. Smith complains about nausea.

これらは、聞き手（読み手）の予測・期待を裏切っている点で、非常に落ち着いた悪い英文である。complain of と、あえて about ではなく of が使われているのだから、聞き手は病状などが話題に出

てくると期待するはずである。ちょうど、「前田君は英語の授業に出
ていましたよ」と「前田君は英語の授業には出ていましたよ」とが、
わずか「は」の挿入だけで、後者は、聞き手に「しかし、…」と何
かよからぬことが背景にあることを想像させるのと似ている。言葉
とは実に奥行きが深い。

B) about と on の使い分け

もう1つ、日本人が曖昧に理解している、あるいは誤解している
前置詞を取り上げてみよう。先の例で示したように、「精神医学の本」
は、「精神医学についての本・精神医学に関する本」ということで、
英語では通常 a book on psychiatry となる。しかし、日本人の発想
からは、a book about psychiatry という表現も考えられる。前置詞
about と on は、いずれも、「～について・～に関して」という意味
で記憶され、両者はほとんど意味としては同値であり差異がないと
合点し、この2つの前置詞の使い分けについては深く考えたことが
ない学習者が圧倒的に多いと思われる。図1は、日本人英文コーパ
スから、「～についての研究/～に関する研究」に相当する表現と思
われる study about の用例を検出したものである。

1 ... A **study about** the desensitization therapy c...
2 ...tion, this study suggests that a cohort **study about** the progress of arteriosclero...
3 ... (PURPOSE): A comparative **study about** the contractility of the exte...
4 ...not done, then, we must have controlled **study about** efficacy of plasmapheresis fo...
5 ...1 320 were compared in a prospective CT **study about** their imaging quality. ...

図1 ● 日本人英文コーパス：study aboutのコンコーダンスの一部

これらの用例は、残念ながらいずれも非標準である。on は about
と比較して、通常「専門的な内容について（に関して）」という意味合
いが強く、対象の的が絞られている場合に使われるので、
study/research/experiment など、研究に直結している単語などの
直後には、on が好んで使われ、about の出る幕はあまりない。日本
人の英語論文タイトルなどで、a study about beam physics/a
research about marine biology というような表現をみかけることが
あるが、これらはいずれも about の代わりに on/of を使うのが標準
的である。前置詞の違いが生み出す微妙な意味の差異に敏感になら

ねばならない。

C) experiment on/with/in の使い分け

さらに、このコラムの冒頭で「の」の訳出例のなかで紹介した表現, experiment on/with/in における on/with/in の使い分けを確認しておきたい。いずれも、それぞれの前置詞の本来の意味を考えると、意味がはっきりしてくる。on は、「～に対して」だから、実験対象について言及している。with は、「～を使って」だから、実験用の器具・材料について言及している。そして、in は「～のなかで」という意味合いだから、実験の分野について言及している。以下は、インターネット上で検索した結果のなかから、これらの解説を明確に支持している表現を抽出したものである。

Experiment on Animals (動物を対象にした実験)
Experiment with Genetically Engineered Food
(遺伝子改変食物を使った実験)
Experiment in Medicine (医学分野における実験)

差異は、場合によっては微妙であるが、基本的な意味を押さえ理解しておくことが肝要である。前置詞の意味を重視した日本語対訳を付記しておいたが、口語では、すでに紹介した通り、すべて「～の実験」と訳出できるので、うっかりすると前置詞の語感を鍛える機会を逸することになる。

D) change of/in の使い分け

最後に、日本人による前置詞の誤用の典型的な例として、change of/in における、of と in の使い分けを確認しておきたい。英語を母国語とする研究者らの英文からなる LSDmini コーパスと日本人英文コーパスを利用して、change in/change of の頻度を調査した結果は、表 1 に示す通りである。

表 1 ● change in / change of の頻度比較

	LSDminiコーパス	日本人英文コーパス
change in	1,531	1,504
change of	136	1,004

注：いずれのコーパスも総語数約 1 千万語

この表は、日本人がいかにか、change of を多用しているかを如実に示している。もちろん、change of という表現は、英語として非標準ではないので、用法に間違いがなければ、上記の数値は問題にするには及ばない。図2は、日本人英文コーパスから、change of の用例を抽出し、その一部を示したものである。

83 ...	Therefore, the change of blood flow in the collapsed lun...
84 ...	thoracotomized lung was obstructed, the change of blood flow in the lung containi...
85 ...	To investigate the change of blood flow of the gastrointesti...
86 ...	void these complications, the secondary change of blood flow should be examined p...
87 ...	arily and then decreased in spite of no change of blood Hb level. ...
88 ...	ABP volume (ml), change of blood hemoglobin level (C-Hb), ...
89 ...	al blood flow following CO2 inhalation, change of blood pressure (autoregulation)...
90 ...	The change of blood pressure caused by inferi...
91 ...	nto mice ddY, (6-8-weeks-olds), and the change of blood pressure was observed for...
92 ...	During DHP with PMX-F, the change of blood pressure was remarkable b...
93 ...	The change of blood pressure, heart rate and ...
94 ...	ships between the number of RBC and the change of blood sugar, and between the nu...

図2 ● 日本人英文コーパス：change of のコンコーダンスの一部

ここでは、change of の直後に、血液に関連する語(句)が来ている用例のものを取り上げている。これらは、個別に精査が必要であるが、ほとんどが数値の変化について言及していると思われる。通常なら、数値などの変化に言及するものであれば、change in で表現されるはずである。ただし、blood flow が、血流の量ではなく、血流の流れ方・様態という意味であれば、血流の流れ方・様態そのものが変容した、という意味に解釈することができ、change in に変更すると、全く伝えられる意味が変化してしまうことになる。このように、change in は、主として量的な変動・変化について言及する場合に好んで使われる。change と同様に、量的な変動・変化に言及するときに使われる単語、difference/increase/decrease/reduction などの直後でも、in は頻出であることを確認しておきたい。

図3は、LSDmini コーパスから change of の用例を抽出したものである。

```

60 ...ate higher k(off) rates, resulting in a change of binding affinity. ...
61 ...arge and hydrophobicity, resulting in a change of cellular localization. ...
62 ... +) cells inside the tumor resulted in a change of cytokine milieu and led to the ...
63 ...the liver isoform of CPTI resulted in a change of its kinetic properties close to...
64 ...zones of a growth plate may result in a change of matrilin oligomeric forms durin...
65 :
66 :
67 ...esting that this mutation resulted in a change of specificity affecting the selec...
68 ...ergy and apoptosis in NK cells and in a change of the NK phenotype from CD16+ CD5...
69 ...tion of His447 to an amide results in a change of the rate-determining step from ...
70 ...ressive feedback loop that results in a change of the Wntless signalling profile...
71 ... cancer, future studies may result in a change of this standard. ...

```

図3 ● LSDminiコーパス：change of のコンコーダンスの一部

ここで示されている用例からも推測できるように、change of は、性質・形状・内容そのものの「修正・変更・改変」などについて言及する場合に好んで使われる。図2の用例でみられるように、本来change inで表現されるべきところを、change ofで表現している多数の実例は、日本人英語学習者にみられる、前置詞の誤用の典型的な例であるので、特に注意したいものである。

(大武 博)